

モンゴル襲来の授業開発

—生徒の既有知のゆさぶりを視点に—

M145889 辻本成貴

M142401 杠 拓哉

小学校教科書にある モンゴル襲来

御家人たちが命がけで戦う。
でも御恩をもらえた者はわずか。
幕府に不満をもつ御家人が出る。

鎌倉幕府は足利氏によって倒される。

武士は、御恩と奉公の関係で成り立っていたが、その関係が崩れると、幕府は成り立たない。

御恩と奉公の崩壊→幕府の滅亡？

元軍は、2度にわたって九州北部におしよせてきました。御家人たちは、元軍の集団戦法や火薬兵器に苦しみながらも、はげしく戦いました。元軍は、2度ともあらしにおそわれ、大損害を受けて大陸に引き上げました。

御家人たちは、命がけで元軍と戦いましたが、幕府から御恩として領地をもらえた者はわずかでした。そのため、幕府に不満をもつ御家人が出てきました。

2度目の元との戦いから50年ほどのちに、鎌倉幕府は足利氏らによってたおされました。

の戦い方
くてもみよう。



時宗がつくらせたものです。

元軍の進路

貴族にかわって力をもった武士は、御恩と奉公の強い関係で成り立っていたんだね。その関係がくずれると、幕府は成り立たないんだな。



授業開発者の教材観

- ① 鎌倉幕府は、モンゴル襲来で奮戦した御家人に恩賞を支払わなかったから、ほろんだのだろうか？

小学生は、モンゴル襲来によって貧しくなり、幕府に不満をもつようになった御家人が幕府をほろぼすという鎌倉幕府滅亡観をもっていると思われる。

しかし実際に幕府を滅ぼしたのは、近畿や関東の御家人で、異国警固番役などを負担しない御家人であって、九州の御家人ではない。

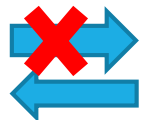
- ② モンゴル襲来は鎌倉幕府滅亡の一要因にすぎない！

武士(御家人)の利益を考えなかった幕府の政治が、幕府崩壊をまねく

- ③ モンゴル襲来を通して現代社会に通底する見方を形成したい

鎌倉幕府(政府)は、御家人という支持者の要求にこたえず、支持を失ったことで、それまでの支持者によって崩壊する。

鎌倉幕府



御家人



政府



支持者



本時の目標

モンゴル襲来と、御家人の領地の細分化、永仁の徳政令、北条氏の御内人による国支配の情報を通して、鎌倉幕府が滅亡した原因を、①御家人の生活が窮乏していたこと、②鎌倉幕府が御家人の生活を救済する手立てを講じなかったこと、という2つの視点から説明できる。

獲得させたい歴史認識

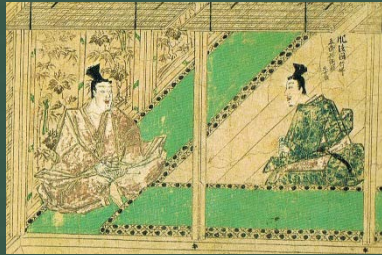
子どもたちは、モンゴル襲来を単なる鎌倉武士(竹崎季長、北条時宗)の「がんばり」としてしか捉えておらず、モンゴル襲来での武士の不満が幕府崩壊につながると短絡的に捉えている。

モンゴル襲来による御家人の窮乏を含めた国内の混乱が、鎌倉幕府を支えていた「御恩と奉公」の関係を崩壊させ、御家人の信頼を失っていく一因となり、室町時代へと移行していったという時代転換のプロセスを掴ませたい。

授業の板書計画

◎なぜ鎌倉幕府はほろんだのだろうか

- モンゴルの襲来 → 鎌倉幕府の滅亡
 - 文永の役1274年
 - 弘安の役1281年
 - 竹崎季長
- 1333年 御家人の不満が爆発
 - 足利尊氏 新田義貞



将軍

○土地を仲立ちとした主従関係×
新しい領地を得られない

御家人に恩賞が与えられない
→御家人の不満高まり、幕府がほろぶ？
なぜ？

御家人

支持者

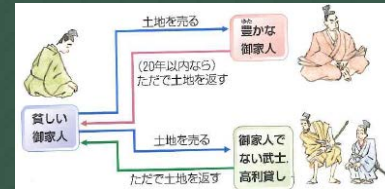
足利や新田は関東や近畿地方の御家人
→防衛の負担してない

○理由1 御家人の窮乏

分割相続制度により、一人あたりの土地が減り、御家人の生活が苦しくなる

○理由2 永仁の徳政令の失敗

土地を手放した御家人に土地を戻すが、経済が混乱



○理由3 御内人による所領支配

北条氏(御内人)が守護の地位を占める国が増加
生活の苦しい御家人に土地が与えられない！



◎御家人の生活が貧しくなっていたにもかかわらず、領地を与えるなどの対策をとらず、御家人の支持を失ったから。

惣領分
庶子

導入(モンゴル襲来前後の出来事を確認)

◎学習活動: 蒙古襲来絵巻を見て、小学校の内容(既成観念)を確認する。
「モンゴルの襲来と御家人の“がんばり”を、絵画と年表で確認してみよう！」

- ・モンゴル襲来にそなえて戦った御家人は誰だろうか？
- ・鎌倉幕府はその後たおれるね。幕府を倒した犯人は誰だろうか？

竹崎季長

(九州の御家人)

足利尊氏

新田義貞

- ・なぜ鎌倉幕府はほろんだのだろうか？と問う。



モンゴル襲来の恩賞が与えられなかったため、鎌倉幕府と御家人の御恩と奉公の関係が崩れ、御家人の不満が高まったから！

本当に恩賞が与えられなかったから御家人は幕府をほろぼしたのか

幕府を倒した足利尊氏や新田義貞は関東や近畿地方の御家人で、モンゴル襲来にかかると負担をしていないにもかかわらず、幕府をほろぼしている。

MQ: なぜ鎌倉幕府はほろんだのだろうか



展開 1 (御家人の領地の細分化)

SQ1 : (全国の)御家人の生活は本当に貧しくなっていたのだろうか？

◎学習活動：教科書記述、蒙古襲来絵巻、資料集の「領地の細分化」を見て、九州だけではなく全国の御家人が窮乏してゆく原因を探求させる。

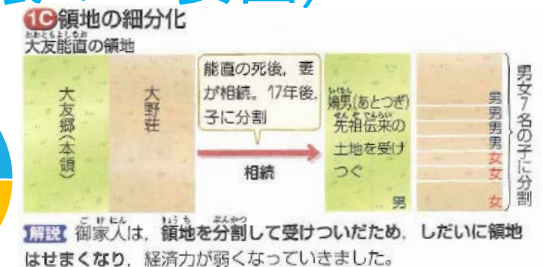
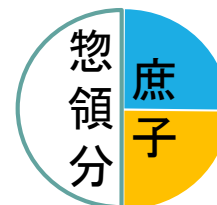
①九州の御家人が窮乏した原因(小学校の内容)

モンゴル襲来に備えて防衛するための軍事的負担、モンゴルを打ち払っても恩賞がないこと

全国の御家人の生活が貧しくなったのはなぜだろうか。

②全国の御家人が窮乏した原因(幕府崩壊の一要因)

御家人は領地を分割して受け継いだため、領地がせまくなり、御家人の経済力がよわまっていった(SA1)



展開 2 (永仁の徳政令の失敗)

SQ2 : 御家人の生活は貧しくなるけど、幕府はそれに対して何をしたのだろうか。本当に生活は良くなったか

◎学習活動：永仁の徳政令を見て、幕府が御家人の窮乏に対して行った政策と、それがどのような結果をもたらしたか探求する。

①永仁の徳政令の内容

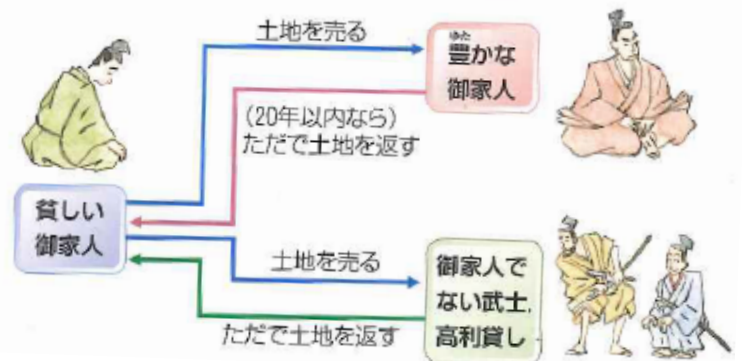
1297年に出された、土地を失った
貧しい御家人を救済するための政策

→本当に御家人の生活は良くなった？

②永仁の徳政令の問題点

土地を借りた者が損をしてしまう
貧しい御家人は得をするが、一時的。
かえって社会の経済は混乱する(SA2)

御成敗式目を守り、地頭や御家人が買った土地のうち、
売買から20年過ぎた土地については、売り主は取り返して
はならない。御家人以外や一般人(高利貸し)が買った土地
については、経過した年月に関係なく売り主は取り返すこ
とができる。
領地の買入や売買は、御家人たちの困窮の原因である。
今後はいっさい禁止する。
(東寺百合文書)



展開 3 (御内人による所領支配)

SQ3：幕府は御家人に恩賞として土地を与えていたけど、
本当に御家人に土地を与えていたのだろうか

◎学習活動：「北条氏が守護をしめる国」を見せ、鎌倉幕府が北条氏中心の得宗専制となっていたことを探求する。

①北条氏が守護を占める国(~1221)

承久の乱後は、45カ国中13カ国を占める
天皇の土地を奪い、北条氏が取得

②北条氏が守護を占める国(~1333)

鎌倉幕府滅亡のころは57カ国中30カ国！

諸国を警備するポストは北条氏一門が掌握し、
所領は御家人に与えられない(得宗専制) (SA3)

身銭を切ってまで御家人を助けようとする

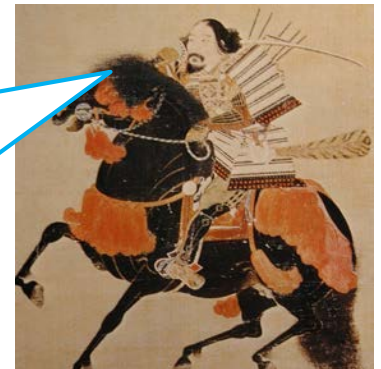


終結(鎌倉幕府崩壊の3原因を整理)

MQ:なぜ鎌倉幕府はほろんだのだろうか

◎なぜ、足利氏や新田は九州の御家人ではなくモンゴル襲来の負担がなかったにもかかわらず、鎌倉幕府をほろぼしたのだろうか。足利尊氏の言葉の背景にある原因を説明しよう。

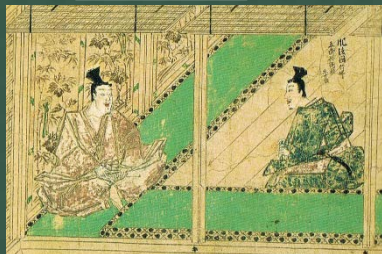
- ・ 鎌倉幕府を倒すのに協力したのは、北条氏が武士の利益を守れなくなっていたからだ。
- ・ 天皇や貴族に武士の気持ちはわからない。もう一度、武士のための政権を作ろう。



◎モンゴル襲来の軍事的負担や、土地の分割相続制度によって御家人の生活が貧しくなっていたにもかかわらず、徳政令という一時的な政策や、御家人に領地を与えるなどの対策をとらず、御家人の支持を失ったから。

◎なぜ鎌倉幕府はほろんだのだろうか

- モンゴルの襲来 → 鎌倉幕府の滅亡
 - 文永の役1274年
 - 弘安の役1281年
 - 竹崎季長
- 1333年
 - 御家人の不満が爆発
 - 足利尊氏 新田義貞



将軍

御家人

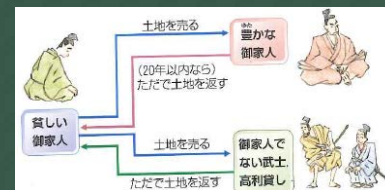
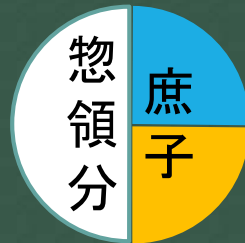
支持者

- 土地を仲立ちとした主従関係×新しい領地を得られない
- 御家人に**恩賞**が与えられない → 御家人の不満高まり、幕府がほろぶ？
- なぜ？
- 足利や新田は関東や近畿地方の御家人 → 防衛の負担してない

○理由1 御家人の窮乏
分割相続制度により、一人あたりの土地が減り、御家人の生活が苦しくなる

○理由2 永仁の徳政令の失敗
 土地を手放した御家人に土地を戻すが、経済が混乱

○理由3 御内人による所領支配
 北条氏(御内人)が守護の地位を占める国が増加
 生活の苦しい御家人に土地が与えられない！



◎御家人の生活が貧しくなっていたにもかかわらず、領地を与えるなどの対策をとらず、御家人の支持を失ったから。

• 主な参考文献

近藤成一編『モンゴルの襲来』吉川弘文館、2003年。

近藤成一「鎌倉幕府と公家政権」『国家史』山川出版社、2006年。

高橋典幸編『日本の歴史 鎌倉時代3』朝日新聞出版社、2013年。

• その他

上杉和彦「中世社会の成立と展開」『概論 日本歴史』吉川弘文館、2000年。

老川慶喜他『詳説日本史』山川出版、2013年。

• 教科書・資料集

『小学社会 6年上』日本文教出版、2012年。

五味文彦他『新しい社会 歴史』東京書籍、2011年。

『つながる歴史』浜島書店、2014年。